



神社本庁よりの幣帛供進

報社
あそみや

平成15年11月1日
第 33 号
発行所
阿蘇神社社務所
多良見町化屋名862
☎ 0957-43-5235

御鎮座四七〇年式年大祭を終えて

阿蘇神社宮司 大島 大明

十月十五日神社本庁より献幣使の参向のもと、御鎮座四七〇年式年大祭を悉く齎行いたしました。阿蘇神社は天文三年（一五三四）秋、当時喜々津を管領していた西郷氏が肥後の国一の宮の阿蘇神社より御分霊を勧請されました。当初は囲名の地に祀られていましたが、九〇年余を経て現在の地に遷座されたと伝えられます。以前は第一鳥居前には鯉池（国道三四号線の拡幅工事に伴い廃池）があり、

御鎮座四七〇年式年大祭を終えて

神社の柱には多くの野鳥が飛来したと云われますが、多くの古木が倒れ、神社の景観も近年では大きく様変わりしています。第一鳥居前に聳え立っていた大杉が倒れて二〇年余。往時を懐かしむ声があります。今般後田國光氏よりこの『大杉』を磨き、衝立としてご奉納いただきました。喜々津の変遷を見守り続けていた大杉は、姿を変えてもなお『御神木』であり続ける感があります。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培い、大平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて、向かふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいだきてむつび和らぎ、國の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

御鎮座四七〇年
式年大祭を齋行!!

秋晴れの十月十五日、平成十五年は御鎮座四七〇年という慶賀すべき年となりました。

定刻宮司以下祭員、神社本庁献幣使が参進し、先ず神饌を供し宮司が御鎮座四七〇年を奉祝する祝詞を奏上しました。次に神社本庁よりの幣帛が神前に供進され、献幣使が祭詞を奏上しました。

次いで巫女による神楽舞、宮司以下参列者の玉串拝礼が行われ、恙なく例大祭を終了しました。

祭典終了後、感謝状の贈呈式が行われました。今回感謝状を贈ら



宮司以下祭員列立



宮司玉串拝礼

れた方は、かこい組(株代表取締役池田忠憲殿(石段への手摺り奉納)と化屋名の後田國光殿(第一鳥居前にあつた御神木の杉を磨き上げ衝立として奉納)の二名で、それぞれに宮司より感謝状と記念品が贈られました。御神木大杉は拝殿内に据えておりますので、ご参拝の折りご自由にご覧下さい。

その後記念撮影と直会(祝宴)が催され、御鎮座四七〇年の式年大祭は恙なく終了しました。



巫女神楽舞

例大祭に際し以下の通り初穂料並びに献酒を賜りました。御芳名を記しお礼を申し上げます。

《敬称略・順不同》

◇初穂料◇

潤神社 宮司 下條洋二、JAことのみ喜々津支所長・草野 榮、(有)森商会・森誠司、阿蘇神社奉納相撲実行委員会・会長松尾義光、(株)森開発・森 強、松本 淳、北島守幸、かこい組(株)・池田忠憲、多良見町長、古賀春生、多良見議会議員、富永喜志雄、吉野 徹、後田國光、山口安博、石丸隆男、山田豊明、本島光行、前田泰政、山村武敏、老人会誠会・会長柴田美智子、山中季男、大黒 貴、木下 保、田中義明 以上

◇献酒◇

親和銀行多良見支店・支店長坂井賢太郎、十八銀行多良見町支店・支店長藤田好宣、原口博道 以上

▽式年祭とは△
定まった年ごとに行われる祭り
で、阿蘇神社の場合は十年ごと
に、献幣使の参向のもと齋行され
ます。全国的に著名な式年祭は諏訪大社の七年目ごとの「御柱祭」、鹿島・香取両神宮の十二年目ごとの「神幸祭」などがあり、伊勢神宮の二十年ごとの式年遷宮も式年祭の一種と考えられます。

▽献幣使とは△

神社本庁からの幣帛を神前に供進して祭詞を奏上します。今回の献幣使は長崎県神社庁の下條洋二庁長が努められました。



感謝状贈呈

奉納相撲大会終了!

去る九月十五日阿蘇神社相撲場で恒例の奉納相撲大会が開催されました。天候にも恵まれ、神社の杜には子ども達の元気な声が飛び交いました。

この他に近隣各町より参加した子供チームにより、町對抗戦が開催されましたが、優勝・準優勝は特別参加の秋桜A・Bが独占しました。秋桜チームは今年から始められた女子相撲で「新相撲」とい、全国大会まで開催されています。将来は国際大会・オリンピックの新品种目として開催されることになっていくそうです。また諫早農高、長崎水産高の相撲部も参加していただき、迫力ある相撲を披露していただきました。

例年相撲大会の開催に尽力いただいている奉納相撲実行委員会(会長松尾義光氏)の皆様方、また抜相撲への商品提供、運営資金の協賛をいただいた関係各位に対し心より感謝を申し上げます。今後とも伝統ある阿蘇神社の相撲大会が継続されますよう、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

当日の成績

▼地区對抗戦

優 勝 中里

二 位 木床A

▼個人戦

◇一〜三年生の部

優 勝 坂本紀行(木床)

二 位 高内健二郎(船津)

◇四年生の部

優 勝 森 泰亮(中里)

二 位 汐除 明(船津)

◇五年生の部

優 勝 藤下 耀(井樋ノ尾)

二 位 白木竜也(船津)

◇六年生の部

優 勝 本嶋太博(木床)

二 位 本多 悌(西川内)



優勝した中里子供会チーム

阿蘇大明神の話

むかし天照大神の孫瓊瓊杵尊が、日本の国を治めるために日向の高千穂の峯におくだりになりました。そして瓊瓊杵尊から三代目の神武天皇が宮崎の港から舟出して大和の国奈良県へ、日本の国をはじめて治めになりました。

神武天皇は、孫にあたる健甞龍命に九州の地を治めるよう命じました。阿蘇を開発した神として阿蘇神社の主神で阿蘇大明神ともいいます。健甞龍命は山城の国宇治郷(京都府宇治市)から瀬戸内海を渡り、宮崎の港につきました。宮崎で祖父に当たる神武天皇が住まれた跡に、神武天皇の神霊を祀られました。現在の宮崎神宮がその杜で、宮崎神宮の古い記録に健甞龍命のことが書かれています。

健甞龍命は九州を治めるには九州の中央部に行く必要があると考えました。海岸を北に進み、延岡から五箇瀬川をさかのぼり、高千穂として草部(阿蘇郡高森町)に着きました。ここには伯父にあたる草部吉見神が居られ、大変喜んで健甞龍命を迎えました。ここで吉見神の娘、阿蘇都媛と結婚します。

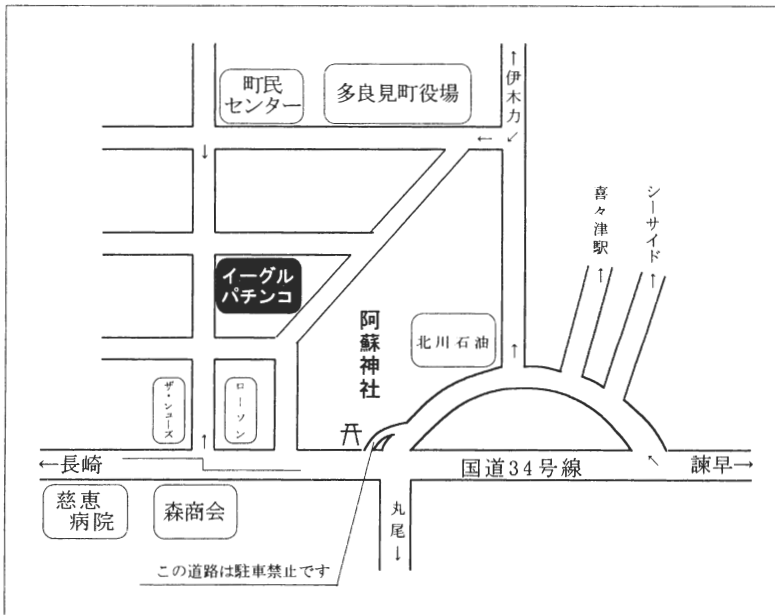
二人は火を噴く山阿蘇一帯に新天地を求めて進みます。その頃の阿蘇は阿蘇谷、南郷谷とも広々と水をたたえた大きな湖でした。この湖の水を流し出して開拓しようとして一大決心をしました。先ず二重の峠のところを蹴破ろうとしましたが、二重になっていて壊れませんでした。そこで立野(阿蘇郡長陽村立野)のスガルのところを蹴りますと、山は音を立てて崩れ湖の水はどっと流れ出しました。スガルとはスキマガアルを縮めた名前とも、「すっかり」と穴が開いたからとも云われています。また、蹴破った時の土くれが飛んできたのが、熊本市の小山戸島であり、菊陽町の津久礼(ツチクレ)であるともいわれます。数鹿流が滝は下野の狩りて追いつめられた鹿が数匹流されたので名付けられました。

健甞龍命は水がなくなった阿蘇谷と南郷谷を開拓し、作物をつくり豊かな土地にしました。健甞龍命のお墓は阿蘇神社の楼門の東にある「一の神陵」で、阿蘇都媛のお墓は「二の神陵」といわれています。

「阿蘇の神話と伝説」(宮川進編)より抜粋

七五三詣では阿蘇神社へ!!

男女三才を『髪置』、男児の五才を『袴着』、女児七才を『帯解』または『紐解』と称し、いずれも子供の健やかな成長を願う行事です。ご家族お揃いでご参拝下さい。
 ◆自動車でご参拝の方は、神社裏のイーグルパチンコ店の駐車場を借用しておりますので、ご利用下さい。



女	男	男女	平成年
七	五	三	成
歳	歳	歳	十
平	平	平	三
成	成	成	年
九	一	十	祝
年	年	年	数
生	生	生	え
生	生	生	年

◆十一月十五日(土曜日)、十六日(日曜日)の両日は、終日七五三の祈願を受け付けます。これ以外の日にご参拝予定の方には、出張祭典などで留守をすることもございますので、お手数ながら事前に連絡をお願いいたします。

総代会便り

四月一日附で神社総代が左記の通り交代されました。

◆退任

- 西川内 森 繁由氏
- 市布 中尾 勝之氏
- 木床 森 憲一郎氏

◆新任

- 西川内 森 伸一郎氏
- 市布 前田信太郎氏
- 木床 葛西 孝行氏

五月三十日に阿蘇神社評議員会が開催され、前年度の決算書及び事業報告、本年度の予算及び事業計画が承認されました。また、監事の選任が行われ、左記の両氏が本年度の監事に選任されました。

西川内 小川虎彦氏
 シーサイド二区 磯本喬一氏

◆奉納御礼

一、拝殿社名額修理 篤志家 殿
 社名額は金箔が剥けていましたが、立派に修理をしていただきました。また毎月境内を清掃されます老人会誠会の皆様方にもお礼を申し上げます。

◎大駐車場完備(阿蘇神社裏)

イーグルパチンコ
 神社参拝の駐車場としてもご利用下さい